

しまったとはと、泣き崩れたのには、私達もつい貰い泣きしてしまった。
(よいし あつお)

素人ならでは……

佐久間 和三郎

図書館は大学の心臓である。と言われておりますが、その機能を全うするためには地味な努力を積みかさね、好意ある奉仕を惜しまぬことと、図書、資料および図書館に関する研究に打ちこむことが必要である。と大野實雄元館長の紀要発刊の言葉を大事に、国宝、重文資料及び内外の典籍百万余冊と年間八十万人を下らぬ入館利用者のために、上限のないサービス業務とも言うべき奉仕の精神をモットーとして館員一同常に努力して来た。

図書館業務は初めてのこと、全く別世界。何せ生え抜きの十年百二十年、三十年選手も多く総てが関心の的、それだけにこれで良いのか、何か一工夫ないものかな

戦後図書館の歩み

ど、例のヤマイが出て来るがズブの素人の悲しさ、勝手な考えが浮かんで来ても、それが実行に移す時期と方法は誠に難事中の難事である。

当時は三課長制は無く事務長のみにて百何十人もの大世帯が専門的業務を各部所で執務、如何にして一日でも早く実態を把握するか？ この一事に専念し毎日各部所廻りをしてはメモ作りをした。今にして思えば随分煩しい事だったろうにと……何も解らない素人、よくもアンナ勝手我儘の振る舞いをジツト我慢し、否、協力もしてくれた事かと、今考えても冷汗三斗の思いである。その思い出を詳しく述べる事は後日に譲り、先ず環境整備美化の第一歩として、事務室内の各係間の衝立間仕切りを取り除き広い「大事務室」に改め、参考資料等も共通で利用出来る様に、且つ交流と人間関係を第一と考え実行に踏切った。

「書庫管理」 換気、特に地階には除湿器を新設し、出納手が気持ち良く活動の出来る様に常時配慮した。何せ百余万冊の貴重な蔵書その埃、これが頭痛の種子、庶務

課長時代に学内の清掃に協力された本部労務員全員の応援で、数日間徹底的に埃払い作業の結果実に気持ち良くホットいたした。書庫を包むアノ美しい蔦の葉埃が震源とは……皮肉なものであった。

“環境整備” 静かに読書を楽しめる学内随一の楽園を目標に、先ず館の内外の清掃を徹底的に行った。“常に花一輪”の精神にて、先ず内庭に“井戸と釣瓶桶の寸景”は美事一幅の画の様だ。また読書後の休息にせめて三尺の芝生の庭でもと事務室の南側一面に芝生の緑と花を、更に池には金魚と噴水を、これ皆金原広雄氏の力作で非常に好評であった。美事に咲いたチューリップの花を一夜にしてスッカリ切り取られた悲しい思い出もあったが、もっと自然を愛する暖かい心が、何故、何時失われたものだろうか？……人間の原点に還って静かに考えて見たい？……

“閲覧室” 静かに読書を楽しむ最高の殿堂楽園を目標に最善の努力配慮を日課とし、周辺の壁にも名画額を飾り、更に校友吉田秀人先輩宅へ伺って頂戴いたした

「怒濤」と「富士」の大名画も飾り、読後の心を少しでも勞う事が出来得れば寄贈された吉田先輩も定めし喜ばれる事と思う。

“月例係長連絡会” 朝考夕省の基本精神でお互いの意見交換を密にし、業務の実績を挙げる原動力となった。新年会、忘年会、旅行会等々……はつとめて全館員参加し親睦を唯一の目的に、そして和と輪を大事に交流の実を結ばれ楽しい思い出であった。特にふる里会津鶴ヶ城を又武家屋敷等背景の記念写真等々もその一つ、これが又何よりも大事と思う。

“商人払請求書”を四枚複写式に改め受入台帳兼用にし係員一名の省力化となった。

“図書整理の能率化並に未整理寄贈圖書の速進法”として、“特別班特攻隊”“短期決戦”など今考えてもゾツとする。素人ならではの出来得ない無茶な事を、よくも実行出来たものだと思うと、冷汗三斗否々百斗の思い、それだけに忘れられない思い出の山山……

“雑誌製本並びに背文字統一化”を提案、まず学内よ

り実施、合理的省力化の事は各大学もよく解かり賛成なのに、何故実現出来ないのか？……

“紀要と月報” 共に大野元館長が生みの親で紀要も29号。月報は二八二号を出してその任務を閉じた。業務日誌は勿論、研究発表の場を持てるなど、学問唯一の図書館員ならではの幸を改めて感謝々々……

“資料” が如何に大事かは多言を要しないが、収集整理保存等々、長い年月の積み重ねの尊いものだけに中々困難である。実は第一学院創立以来の大事な諸資料は前述の様に幸い空襲より免かれ、更に資材課、庶務課、経理部等の私的資料をも含め全部大学史編集所へ差上げた。村井総長先生より身に余る感謝状を戴き恐縮いたした。戦時中また戦後アノ苦勞も母校百年史に少しでもお役に立つ事が出来れば何よりも嬉しい。唯残念なのは第一学友会誌創刊号より完備の門外不出のものを、学院解散記念号発行資料に学生委員に特別貸出遂に不帰。後日田中善造先輩より実情説明し頂戴いたしたが欠号は未だに補充出来なかった。また喜悲の記録。(祝賀送別見舞等通

知報告返礼等一切の書類等) 半世紀に近い間の収集保存のものを或先生の古稀の記念事業の資料にと貸し出しこれ又不帰、送別会等毎に思い出され、靈魂は不滅？ されど一度失われた資料は永久に不帰？

“和漢、洋書整理と基本カード原点の私案” 図書館本館書庫に百余万冊の蔵書、これを利用するには基本カードにすることが原則である。故にこの基本カード作りに各図書館は多くの時間、即ち多数の司書職員は完全無欠をモットーに努力の限りを注いでいる。

ただ考えさせらるる事は、同一内容の図書を各図書館が購入し、それを上記の様な基本カードを各々が作っているが、何か省力合理化の案はないものかと常に考えて居ったが、これは一早稲田のみで結論の出ない全国図書館の問題である点から大野館長に意見を具申し、東大、一ッ橋大、私大では慶明法立日中等の外に業者では丸善、紀伊国屋、雄松堂書店などお集り願って基本カードの考え方等についての会を本部会議室で催した。その席上で一つの案として図書館側としては各図書に、基本カ

ード一枚を入れることが出来れば、図書購入直ちにカードを配列し、閲覧の便に供する事が出来るので、業者の協力方を計った処、丸善の部長氏曰く、書棚に配列の本を客が立読みの折りカードを落す事は当然考えられ、またそれを直ぐ元の本に入れば問題はないが、それは言うべくして実行は仲々難かしい云々……ではカードでなく各図書の末尾にカード形式に印刷し、それを切り取るか複写方式は如何なものかと……これも原案試案であるがと曰く、これは業者、出版者の問題でもあり我々のみにては何とも申し上げかねる。図書館のご苦労はよく分るが業者側より言わせていただくなれば、出版される図書の何%が基本カードを必要とするのか、即ち図書館等で購入されるのでしょうか？ この一言で図書館側としては返事に困ってしまった。この問題は業者の協力のみでは解決出来るものではなく、せめて我々大図書館と自認される何校かの共同体、即ちカードセンター（仮称）を作る以外に道はない、と考え会議に計ったが、主旨には皆大賛成されたが？

更にその後図書館協議会等々にも何回か提案種々討議はされたが、実行には中々つながらず残念でならない。後日友人に早稲田の提案は実に立派であるが各館の協力がなく実現出来なかった主因は、自分も含めて図書館人の考え方即ち専門職の自認。それを集中化される事に問題があったと思う。佐久間さんの様な（素人）方には失礼かも知れないが、素人の方には想像も出来ない縄張り意識が強いことに起因した事と思う……と……会議後、雄松堂書店新田満夫社長が海外に商用出張の折り、諸外国の実態を参考にいたしたいがと依頼したら、貴重資料と共に種々の実物カードなど沢山頂戴した。それもこれも今は思い出の土産？ 無念の涙のみ残し図書館を後にした。今日でも尚且つ断念せず何時の日か必ず実現をと夢にも心より祈念いたしている。

今更言う迄もなく、同じ図書の同じ基本カード作りを何故に全国の各図書館が同じ作業を人手が足りない足らないと苦しんでいるのか、全国的視野に立つてこの問題こそ解決すべき最も重大な岐路に立たされているのに、

実現出来ないその真意が未だに私には判らない……。

重ねて一言。法制化の実現こそ全図書館人の念願であり、これ以外に解決の道はないと思う……。

追記 安部球場に新図書館建設決定の朗報に接し実に感無量。在職時大学図業館行政改善委員会委員長に戸川理事、全学二十二名の委員（私は幹事役）で一年間余審議の結果成案の答申書……（戸塚球場に理想の新図書館建設）その実現こそ日夜祈念心中お察し願います。

更に一言、安部球場は明治三十五年にでき、私も同三十五年七月十六日誕生日とは？ これ又……奇縁？……

後記 昭和五年一月第一学院に奉職当時の思い出も束の間、非常時より応召軍隊生活大空襲、学院は壊滅……廃校……第二理工……資料課、庶務課、図書館、経理部を最後に……総ての箇所の上司先輩同僚後輩として友人にも本当に恵まれた。先見と理解ある心より尊敬の出来る指導者の先輩、腹の底より赦し合える協力者の同僚、そして純真そのものの後輩ばかりだった。半世紀を振り返って見て、私ほど我儘勝手放題の事をよくもやり通させてく

れたものだ。と今更の様に感無量でならない。正に冷汗百斗である。只々申訳ないこの一事で胸が一杯、それもこれもすべては過去。水に流して頂きたい。天下の果報者、心より感謝とお礼を申し上げ、更に先輩が一つ一つ築かれた百年の尊い歴史の重みを我々は汚すことなく母校愛の三文字を背負うて、常に自信と誇りとをもって明日の希望に燃え、悔のない生涯を楽しく生き抜こうではありませんか……静か……に学園を去った老兵の手記。

（さくま わさぶろう）

思い出すままに

角田 俊雄

図書館長佐々木八郎先生と云えば、当時、大学のご意見番として、本職の平家の他に、行政的手腕は実に見事なものであった。

その先生のお言葉は、君は今更図書館のことに